

実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書



調査区全景（南東から）

2018

姫路市教育委員会

調査にいたる経緯

姫路市実法寺宇乾角 37-1 番地において工場建設工事が計画された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である実法寺遺跡・実法寺廃寺（県道番号 020561）の範囲に位置することから、事業地内での埋蔵文化財の状況を確認するため確認調査を実施した。確認調査では、建物計画範囲の四隅に調査区を設定した。その結果、北西隅、南西隅、南東隅の 3ヶ所の調査区においてピットや土坑などの遺構を確認し、土坑からは土師器片が出土した。北東隅の調査区では、遺構は確認できなかったが地山が良好に保存されていることを確認した。確認調査で、事業地内に埋蔵文化財が良好に残存していることが明らかとなったため、埋蔵文化財に影響が及ぶ基礎部分について本発掘調査を行うこととなった。調査面積は 46 ㎡で、調査期間は平成 29（2017）年 7 月 26 日から 7 月 29 日までである。

調査の位置と周辺の歴史的環境

調査地が位置する実法寺遺跡・実法寺廃寺は姫路市北西部に位置する。周辺には、サヌカイトのナイフ形石器が採集されている長池遺跡がある。また、遺跡の西側に位置する伯母山の山塊には横穴式石室をもつ小古墳が点在し、なかでも伯母山 1 号墳は両袖式の横穴式石室が良好に残存している。さらに、菅生川を挟んだ東の対岸の天神山山塊にも前方後円墳である天神山 10 号墳をはじめとし、古墳が点在している。実法寺遺跡・実法寺廃寺については、吉田俊三著『夢前川流域史』に実法寺出土として軒丸瓦や軒平瓦が紹介されているが、遺跡の実態は不明である。

調査の成果

基本層序 建物建設範囲内の基礎部分（10ヶ所）で発掘調査を行った。いずれの調査区においても基本層序は同様であり、第 1 層盛土、第 2 層 耕土（黄褐色 2.5Y5/4 極細砂混じりシルト）、第 3 層 床土（オリーブ褐色 2.5Y4/3 極細砂）、第 4 層 地山（明黄褐色 2.5Y7/6 シルト）であった。第 4 層上面で遺構を検出した。遺構検出面の標高は約 26.5m である。

遺構 今回の調査では、1 区から 10 区までの調査区で土坑（SK）6 基、ピット（SP）12 基、溝（SD）3 条を確認した。

2 区で確認した SK1 は、長軸約 1.1m、短軸約 0.5m、深さ約 0.4m を測る。同じく 2 区で確認した SK2 も、遺構の上層が削平されているものの SK1 と同規模の土坑である。この 2 つの遺構は埋土も同質であり、遺構の形状や配置から掘立柱建物の柱穴である可能性も考えられる。この他にも掘立柱建物に関連するとみられる土坑やピットを複数基確認したが、調査区が小規模であり、各区の間隔が離れているため、建物規模を復元するには至らなかった。

1 区の SD1 は幅約 0.3m、深さ約 4cm の浅い溝である。埋土から弥生時代中期に該当する土器が出土した。

8 区の SD2（図 3）は幅約 1.0m、深さは最も深いところで 0.84m を測る。溝の埋土から弥生土器がまとめて出土した（図 4-1～4）。

9 区の SD3 は幅約 0.6m、深さ約 0.4m を測る。溝の埋土からは土師器や須恵器（図 4-5）が出土した。

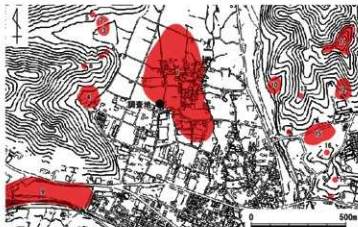
遺物 溝（SD1・SD2・SD3）から弥生土器・土師器・須恵器などが多数出土した（図 4）。以下、詳細を記載する。1～4 は、SD2 の第 3 層から出土している。1 はくの字状口縁をもつ甕である。外面は肩から胴部にかけてはハケメを施し、胴部から底部についてはミガキを施す。器壁には煤が付着し、被熱による剥離がみられる。2 は無頸甕である。口縁部に指頭圧痕帯が 3 条めぐり、口縁部外面に黒斑があるが、全体的に摩滅・剥離が著しい。4 は壺の頸部から肩部にかけても破片である。器壁には波状文や格子文を施し、円形浮文が貼り付けている。3 は壺の底部である。外面にはミガキを施す。いずれも弥生時代中期に該当するものと考えられる。5 は SD3 から出土した須恵器の高杯である。破片であるため時期の特定はできないが、概ね古墳時代後期の範囲に収まるものとする。

まとめ

今回の調査では、弥生時代中期の溝を確認した。実法寺遺跡・実法寺廃寺では、弥生時代の遺構はこれまで確認されておらず、同遺跡の様相を考える上で貴重な成果といえる。また、瓦など実法寺廃寺に関連する遺物は確認できなかった。

【参考文献】

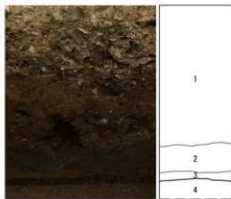
長友順子・田中元浩 2007 『西播磨地域の編年』『弥生土器集成と編年—播磨編—』大分県立大学史学研究所



1. 実法寺遺跡・実法寺廃寺 2. 伯母山遺跡 3. 伯母池遺跡 4. 寺谷廃寺 5. 伯母山 1 号墳
6. 伯母山 2 号墳 7. 伯母山 3 号墳 8. 伯母山 4 号墳 9. 長池遺跡 10. 引照廃寺
11. 天神山城跡 12. 天神山遺跡 13. 天神山 10 号墳 14. 天神山 11 号墳 15. 野田池遺跡
16. 菅原山 5 号墳 17. 菅原山中世墳基跡 18. 菅原山遺跡



図 1 周辺の遺跡 (S=1:20,000) と調査位置図 (S=1:1,500)



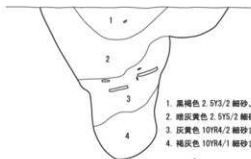
1. 腐土
2. 腐土
3. 床土
(黄褐色 2.5Y5/4 細砂混じりシルト)
4. 地山
(褐色 10YR4/4 細砂混じりシルト)

0 50cm

図2 基本層序 (S=1:20)

A
26.7m

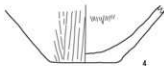
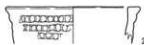
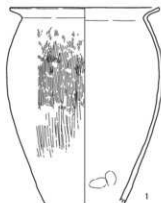
A'
26.7m



1. 黒褐色 2.5Y3/2 細砂、土器片含む
2. 暗灰黄色 2.5Y5/2 細砂まじりシルト
3. 灰黄色 10YR4/2 細砂まじりシルト
4. 褐色 10YR4/1 細砂まじり

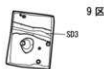
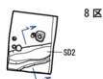
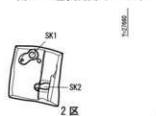
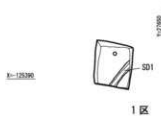
0 50cm

図3 SD2土層断面図 (S=1:20)



0 10cm

図4 土器実測図 (S=1:4)



0 5cm

図5 平面図 (S=1:200)



写真1 8区調査区全景(北より)



写真2 8区S02土層断面(A-A')



写真3 8区S02出土遺物

報告書抄録

ふりがな	じほうじいせき・じほうじはいじはくつちょうさほうこくしよ								
書名	実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書								
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第68集								
編著者名	関 梓								
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター								
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1				TEL (079) 252-3950				
発行年月日	平成30年(2018年)3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
じほうじいせき 実法寺遺跡	じほうじはいせき 実法寺廃寺	ひょうごけんのみつしほらうち 兵庫県姫路市実法寺 あがいのやま 字乾角37-1他	28201	020121	134° 63' 58"	34° 86' 93"	2017.7.26 ~ 2017.7.29	46.0㎡	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		遺跡調査番号		
実法寺遺跡・実法寺廃寺	散布地、寺院跡	弥生・古墳時代	土坑、ピット、溝		弥生土器、須恵器、土師器		20170182		

例言

- 本書は、姫路市が株式会社タラシエの委託を受け、姫路市実法寺字乾角37-1他に所在する実法寺遺跡・実法寺廃寺(史跡番号020121)の発掘調査報告書である。
- 発掘調査の実果ならびに本報告書の発行に際しては、株式会社タラシエに多大なるご協力を頂いた。
- 現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会 先鋒学習部 埋蔵文化財センターが実施した。
- 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡例

- 発掘調査で行った測量は、世界測地系(測地成果2000)に準拠する平面図形内接楕圓系V系を基準とし、数値はm位で表示している。
- 本書で用いる標高は、東京湾平均海面(T.P.)を基準とし、使用する方位は世界測地系の楕圓北である。
- 遺構・土層等の呼称は、調査時の番号を基本とするが、整理に際して変更したものである。
- 土色は、小山正志・竹岡寿雄編「2003『新築 標準土色編 25版』日本色研事業株式会社に準拠した。
- 遺構番号は基本的に通し番号とする。
- 本書に用いた遺物番号は、本文・図面・写真ともに一致する。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第68集

実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書

編 集 姫路市埋蔵文化財センター

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1

発 行 姫路市教育委員会

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

発 行 日 平成30年(2018年)3月31日

印刷・製本 富士高速印刷株式会社

〒679-4232 兵庫県姫路市林田町上伊勢962-3